



16号 令和4年8月31日

<学校教育目標>

自ら伸びる ともに伸びる

## 校長だより(職員編)

呉市立市阿賀小学校  
安宗 誠

# 「知恵の蔵をひらく」～稲盛和夫氏から学ぶ～

昨日、稲盛和夫氏が亡くなられた(享年90歳)との報道がありました。稲盛氏と言えば、京セラの創始者、日本航空の再建者としてあまりにも有名です。

『1日1話、読めば心が熱くなる365人の仕事の教科書』(致知出版社)という、著名人の仕事の流儀や哲学を記した書物の1人目に載っている方。それくらいすごい方。その稲盛氏がこの書物の中で語っていることを一部紹介すると・・・。

「『創造』の瞬間とは、人知れず努力を重ねている研究生活のさなかに、ふとした休息をとった瞬間であったり、時には就寝時の夢の中であったりするのです。そのようなときに、『知恵の蔵』が扉をひらき、ヒントが与えられるというのです。エジソンが電気通信の分野で、画期的な発明発見を続けることができたのも、まさに人並み外れたすさまじい研鑽を重ねた結果、『知恵の蔵』から人より多くインスピレーションを受けられたということではなかったでしょうか。人類に新しい地平をひらいた偉大な先人たちの功績を顧みると、彼らは『知恵の蔵』からもたらされた叡智を創造力の源として、神業のごとき高度な技術を我がものとして、文明を発展させてきたのだと、私には思えてならないのです。」

明日から、いよいよ2学期がスタートしますが、それぞれの職種、立場で、その道の追究を続け、是非「知恵の蔵」の扉をひらいてほしいと思います。

とりわけ、授業について追究する重点は・・・。

### <「分かった」「できた」を実感させるために>

- 1 導入で、「なぜ?なぜ?」を引き出し、それに基づく学習課題を設定する。
- 2 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の場を設定し、相互作用により、学びを深める。
- 3 必要感のある「対話」、効果のある「ICT活用」の場を設定する。
- 4 「発展的振り返り」の書きぶりから、「分かった」「できた」授業の達成状況を見取る。  
また、「発展的振り返り」により、授業と家庭学習を線でつなぐ。

### <「絆」を実感させるための取組の重点とは?>

4つの場面(一斉授業・協働学習・個別学習・自己内対話)において、「生徒指導の三機能」(自己決定の場・自己存在感・共感的な人間関係)を満たし得る手立てを工夫する。

さらに、

<LSC(Limit & Shake & Confirm)の日常化を図る>